



# 芸術と医学

式場隆三郎の青年期

式場は新潟市での医学生時代に白神派に傾倒、武者小路実篤、柳宗悦、岸田劉生らの知遇を得る。同級の吉田也、橋本敏三らと同人誌「アム」を創刊（一九一九年）。彼らは新潟市内で泰西美術展、製展覧会や、実篤、宗悦の講演会などを開き、新し



新 式場隆三郎

支部を名乗った式場は、柳宗悦による木岐仏の全国調査に協力。民藝運動にも同伴し、さらに「ゴッホの精神病理学的な研究」に手を執る。当時の貴重な資料を通じ、若き日の式場を育んだ大正期の文化環境をみ



# 電線絵画展

2017年 2月28日(日) ~ 4月18日(日)



会場：練馬区立石神井公園ふるさと文化館  
（東京都練馬区石神井町5-12-16）  
開館時間：03-3599-4060  
会期：2017年11月28日(土) ~ 2018年1月16日(土)

# 芸術と宿命

美術と文学をめぐめる仕事 式場が戦後に全国巡回させたゴッホ複製画などを紹介する。これは多くの日本人が初めて見たゴッホ作品であり、「炎の人」としてのゴッホ像を決定づけた。また式場は東京深川の特異な住宅建築（二笑亭）を

序文で「宿命的な芸術家」に、健全な人生に対する憧れと、誠実な自己省察を見出す姿勢を示す。そこには、人間性の中心と周縁を同じ平面上に見る視野があった。



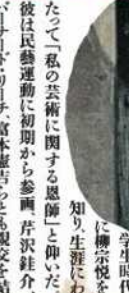
式場は、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたり、民藝運動に初期から参加、岸田劉生、武者小路実篤、吉田也らとも親交を結んでいる。式場邸の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は「人妻の教養」結婚の饗宴「独身者の龍児」といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。

式場君の趣味は甚だ多面的だ。医者の方とは別として、文芸のこと、美術のこと、演劇のこと、科学のこと、何でも対象になる。だから益々仕事かふえる。ふえると益々本領が発揮される。こんな型の人はいさう沢山ない筈だ。



式場は、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたり、民藝運動に初期から参加、岸田劉生、武者小路実篤、吉田也らとも親交を結んでいる。式場邸の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は「人妻の教養」結婚の饗宴「独身者の龍児」といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。

式場隆三郎（1898-1955）は現在の新潟県五泉市に生まれ、新潟医学専門学校（現新潟大学）に学んだ精神科医であった。医業のかたわら民藝運動、ゴッホ論、精神病理学入門、性教育書に至る著べき健康をふり、生涯の著書は約100冊に及ぶ。ゴッホ複製画展や山下清展などの事業も手がけ、広大な大衆の関心と興味を先導した。式場の多分野にわたる芸術的な活動は、私たちの芸術観の形成前史は「ゴッホ」制作、複製、展示、この一連の営みにあずかるものであった。幅広く時代に導かれ、幅広く時代を導いた式場は、近現代日本の文化史に重要な文脈を与えたのである。可視資料と不可視資料の両極を往還した特異な個性を評する文字として、副題を式場の著書「二笑亭」から採って「脳室反射鏡」とした。その多彩な足跡を、約100冊の作品資料を通じてたどる。



式場は、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたり、民藝運動に初期から参加、岸田劉生、武者小路実篤、吉田也らとも親交を結んでいる。式場邸の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は「人妻の教養」結婚の饗宴「独身者の龍児」といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。

式場君の趣味は甚だ多面的だ。医者の方とは別として、文芸のこと、美術のこと、演劇のこと、科学のこと、何でも対象になる。だから益々仕事かふえる。ふえると益々本領が発揮される。こんな型の人はいさう沢山ない筈だ。



式場は、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたり、民藝運動に初期から参加、岸田劉生、武者小路実篤、吉田也らとも親交を結んでいる。式場邸の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は「人妻の教養」結婚の饗宴「独身者の龍児」といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。

式場君の趣味は甚だ多面的だ。医者の方とは別として、文芸のこと、美術のこと、演劇のこと、科学のこと、何でも対象になる。だから益々仕事かふえる。ふえると益々本領が発揮される。こんな型の人はいさう沢山ない筈だ。



式場は、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたり、民藝運動に初期から参加、岸田劉生、武者小路実篤、吉田也らとも親交を結んでいる。式場邸の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は「人妻の教養」結婚の饗宴「独身者の龍児」といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。



式場は、学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたり、民藝運動に初期から参加、岸田劉生、武者小路実篤、吉田也らとも親交を結んでいる。式場邸の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は「人妻の教養」結婚の饗宴「独身者の龍児」といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。

# 式場隆三郎「脳室反射鏡」

10月11日(日) ~ 12月6日(日) 令和二年

